

教員研修

中学校「共創型探究学習 CAN」の参観

小学校の教員が中学校を訪れ、中学校の「共創型探究学習 CAN」の授業を、年間を通して参観しています。中学校での探究学習の進め方を知ることで、小学校の総合的な学習の時間をはじめとした探究的な学習をより充実させるヒントを得ています。それぞれの教員が参観して感じたことを校内で共有し、それぞれの学年の取組に生かせる部分を探っています。

参観した教員の感想

- 子どもの「好き」「気になる」から出発する学習が、探究の原動力になっていることが分かった
- グループの力が、課題の設定力や探究の広がり大きく左右すると感じた
- 教員は「伴走者」として関わり、ノートや iPad を使った記録・整理を支援していた
- 「やることボード」など見通しを持てる仕組みが、学びの自律性を育てていると感じた

子供の内発的な問いを起点とする探究の姿勢と、柔軟な教師の支援の在り方は、本校の総合的な学習の時間「未来学習」の充実を図っていく鍵になると考えています。10月に行われる CAN の発表会には、小学校6年生が参加予定です。参加しての様子を後日、お知らせいたします。



2

教員交流・年間を通して実施

校内研究授業の相互参観・教員交流

4月1日に、附属坂出学園の4校園がオンライン上で集い、学園協議会を行っています。幼小中で育成を目指す子供像を明らかにしたり、それぞれの学校園の研究の取組について情報交換を行ったりして、共通理解に努めています。

そして、年間を通じて、小中それぞれの校内研究授業をお互いに参観し合い、意見を交換しています。授業を見比べる中で、小中の学習内容には重なる部分が多いことが見えてきました。単元のつながりを意識した授業づくりを、これからも進めていきます。

交流を通して

- 小学校と中学校、それぞれの授業づくりの工夫を直接学び合えた
- 単元のつながりを意識することで、9年間を見通した授業改善につながった
- 教員同士が顔の見える関係を築き、日頃から相談しやすくなった



授業討議の様子